

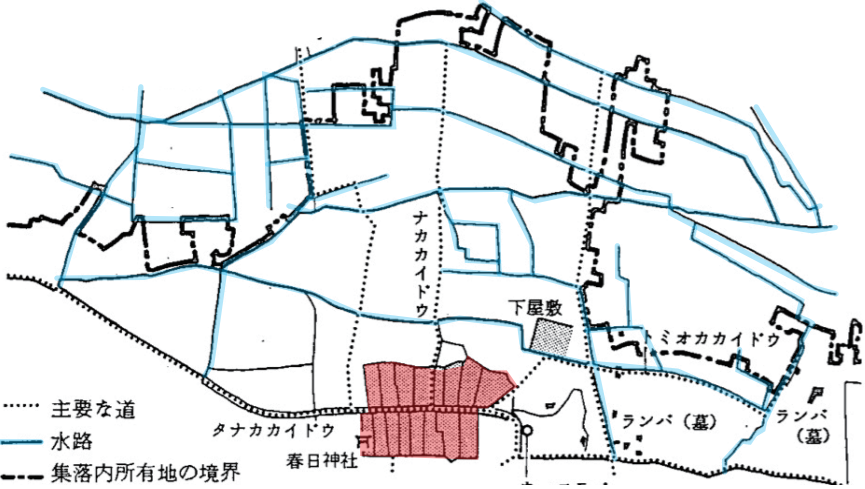
敷地リサーチ おさらい - 六郷の古くからの集落と家について（藤田新田の例）

□藤田新田の位置



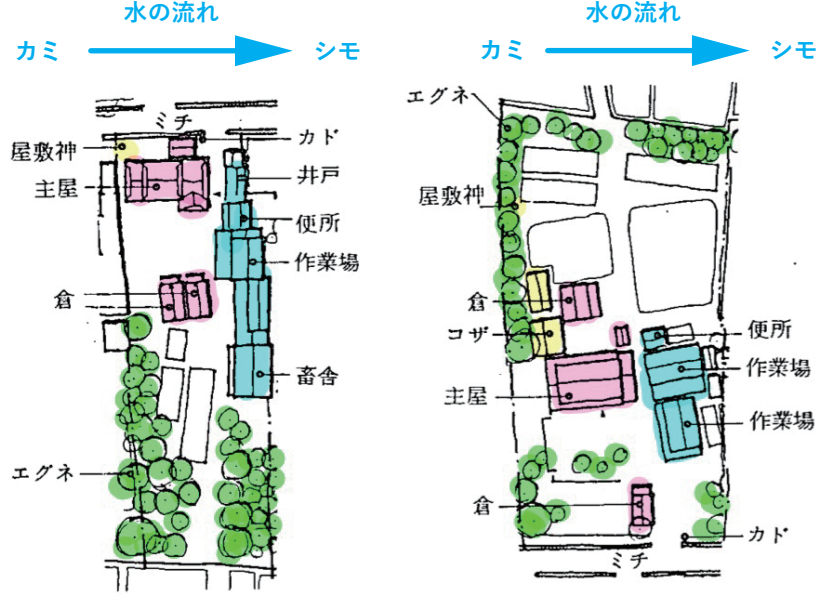
六郷地区は北西方向から南東に向かって流れる用水路によって水田に水を供給しています。かつての集落は用水路と水田との間に深い関わりを持ちながら分布していました。

□水路と村の境界の関係



村の領域は周囲の水田の所有によって分けられ、水田の所有権は水路の経路に沿って決められていました。

□水路の流れと屋敷内の建物の配置



屋敷周辺を通る用水路の川上を「カミ」、川下を「シモ」と呼んでいました。この名残は地名として六郷に広く残っています。

→「カミ」には屋敷神、「シモ」には作業小屋、便所、土間などが配置されており、この配置は全ての住居で共通していました。

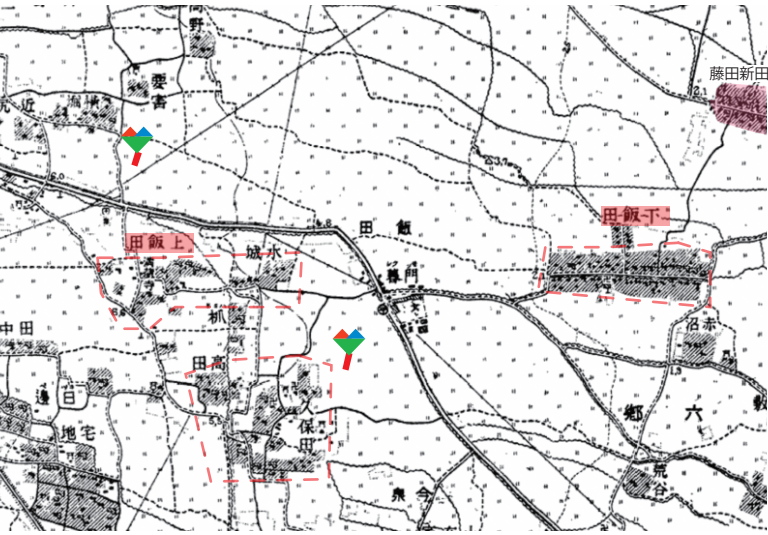
□屋敷特有の建物の配置



屋敷神・屋敷林の位置

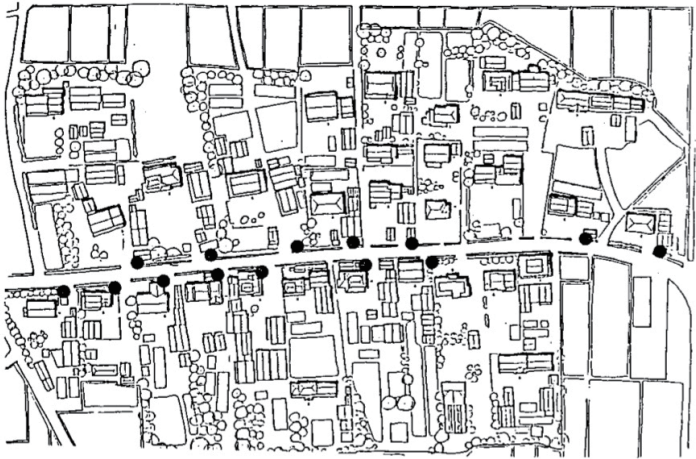
敷地西側に配置される屋敷神に沿うように屋敷林が植えられ、各家がそれぞれ屋敷神を祀っていました。

□地名とかつての集落の関係



1947 年

古地図を見ると「カミ」、「シモ」のついた地名が門暮を跨ぐ形で分布しており、集落も存在することから藤田新田での用水路との密接な関係は敷地周辺でも見られたのではないかと推測されます。

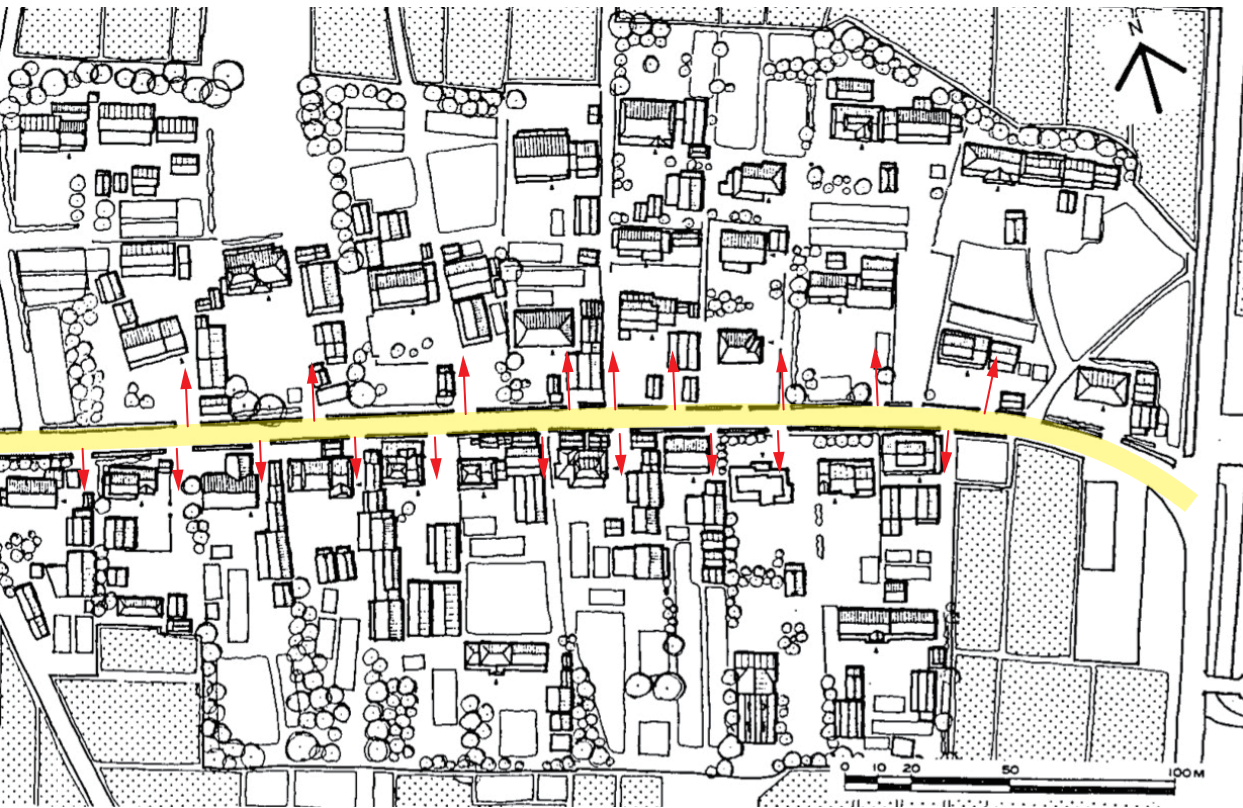


カド（洗い場）の位置

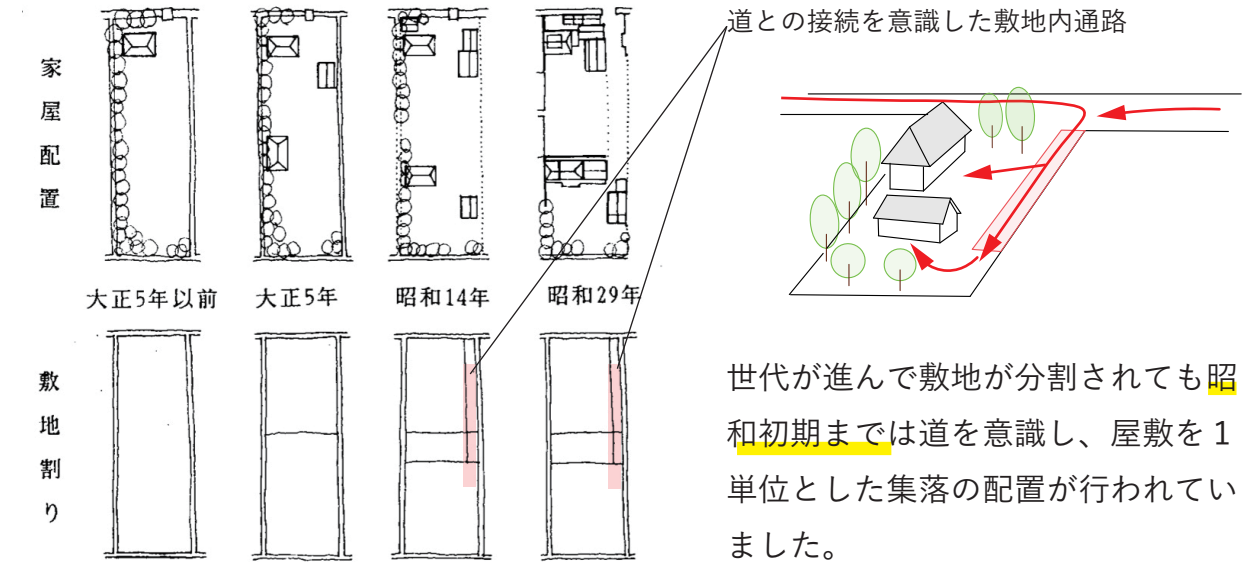
カドは道に沿って配置され、単なる洗い場ではなく、屋敷の生活が道路に垣間見える家の顔としての役割を果たす場所でもありました。

敷地リサーチ おさらい - 六郷の古くからの集落と家について（藤田新田の例）

□道を意識した伝統的な屋敷の配置

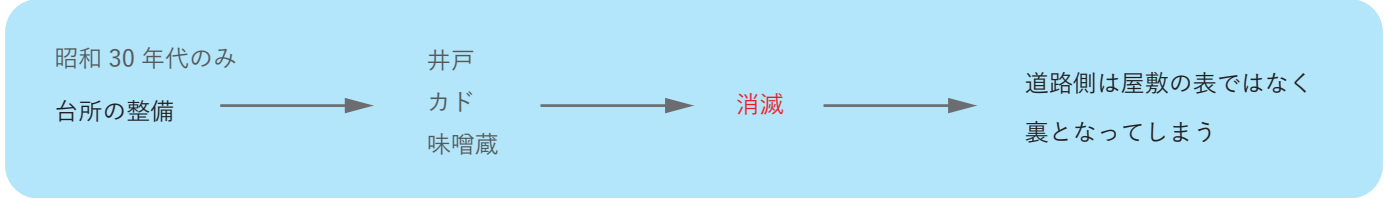


道は集落にとって中心的な役割を担う場所であり、カド（水洗い場）が配置されることで住民の生活風景が広がる場所でした。同時に祭りの日には集落の住民が道を練り歩くなど儀礼的な重要性も兼ね備えていました。



道を意識した敷地の分割の例

□水回りの整備と屋敷の移り変わり

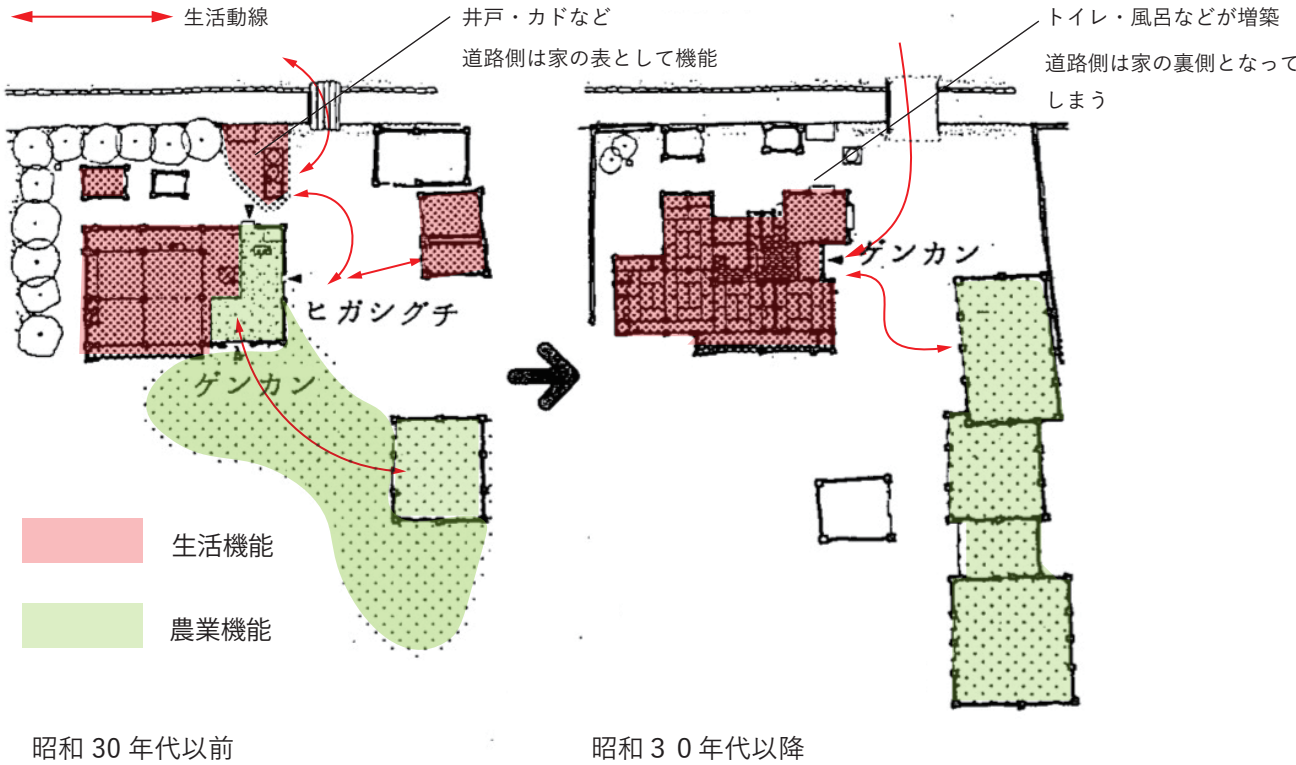


住居の中の水回りが整備されて屋敷に分散していた味噌蔵などが住宅に納められます。

→土間だった部分に風呂やトイレなどの水回りが作られ、土間や屋外で行われていた農作業は外の小屋に収まります。

→屋敷入り口としての役割はカドから玄関に移ります。

→人々の生活のは庭を含んだ敷地全体から住宅の建物へと変化してゆき、屋敷の構成は失われていき、生活同線はコンパクトになって行きました。



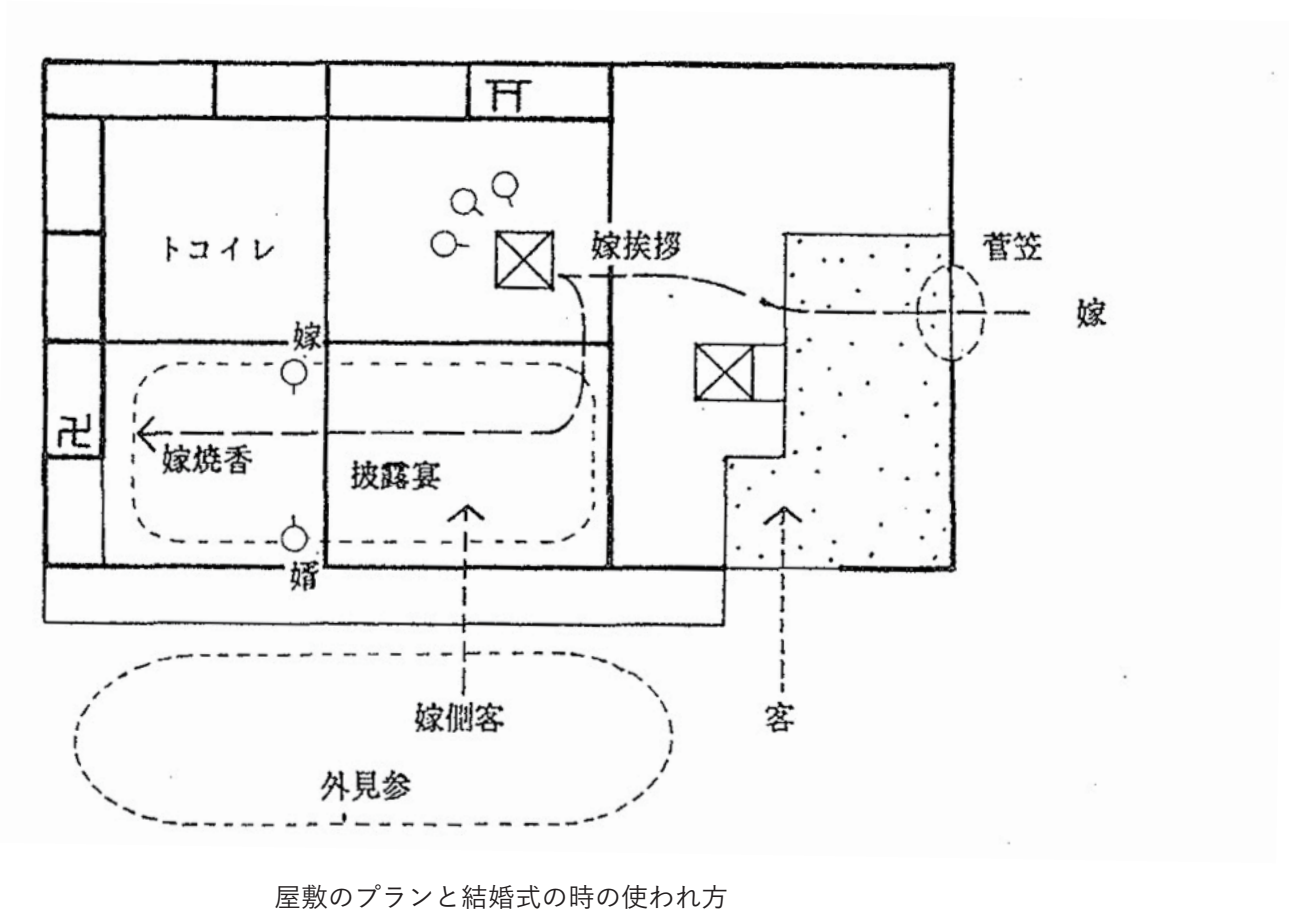
敷地リサーチ おさらい - 六郷の古くからの集落と家について（藤田新田の例）

□敷地内の建物の配置

伝統的な集落の建物の配置は主に3つの分類に分けられ、それぞれ年代や住まい手に特徴が見られました。

	I 軸中心型	II 庭中心型	III 主屋独立型
分類			
	集落の当初の屋敷割 (30m×90m) が維持されている物が多い。	当初の敷地割が南北に分割された場所に多く見られた。 軸中心型の住民の分家が敷地内に住宅を立てることで成立することが多い	昭和 49 年頃から建ち始める新しい型の住宅で、住民は農業を営まない外部からの転入者が多い。
住民像	古くから集落に居住している家族	I の分家	外部からの転入者
建物の配置とその特徴			

□伝統的な屋敷のプランニング



座敷4室と土間からなる「田の字平面型プラン」となっています。それぞれの部屋が仕切られたり、一体で使われたりすることで日常生活から冠婚葬祭などの特別な行事まで行えるようになっていました。